

平成 28 年度 全国学力・学習状況調査から見られる概況について<江津市>

1. 小学校について

小学校調査 6年生 市内7校 170名

小学校	調査種別	江津市	全国	島根県
国語	国語A	72.6	72.9	74.5
	国語B	56.5	57.8	57.3
算数	算数A	75.6	77.6	77.0
	算数B	43.4	47.2	45.9

【各教科調査問題】<○：強み ▲：弱み 全国：各教科における全国平均正答率>

国語 A	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率について、全国と比べて大きな差は見られなかった。 ○言語事項に対する知識、技能（特に漢字の読み書き）は、全国を上回った。 ○全国の分布と比較し正答数の多い層がやや多かった。
国語 B	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率について、全国と比べて大きな差は見られなかった。 ▲条件にあわせて資料（グラフ等）を読み取り、考えを書く問題について全国を下回った。
算数 A	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率について、全国と比べて大きな差は見られなかった。 ○「量と測定」に関する事項を扱った問題について、全国を上回った。 ▲「図形」「数量関係」に関する事項を扱った問題について、全国を下回った。 (小数の除法に係る計算や処理、図形の構成等)
算数 B	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率について、全国を下回った。 ▲数値・式の意味を説明する問題について、全国を下回った。 ▲複数の数量（グラフ）を読み比べ、事象と関連付けて説明する問題について、全国を下回った。 ▲図形の構成に関する事項を扱った問題について、全国を下回った。

【児童質問紙調査】<○：強み ▲：弱み 全国：質問紙調査における全国平均値 >

学校	<ul style="list-style-type: none"> ○「総合的な学習の時間」の探求的活動が取り入れられている。 ○話し合い活動が充実している。 ○「めあて」「ふりかえり」が徹底されている。 ○「国語」に関する質問事項への肯定的回答が多い。 ▲算数を普段の生活の中でどのように活用するのかという意識が低い。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○1時間以上家庭において学習している。 ○授業の復習をしている。 ○地域の行事等に積極的に参加している。 ▲就寝時刻の遅い児童の割合が全国と比較し多い。 ▲TVの視聴時間が長い。
意識	<ul style="list-style-type: none"> ○将来の夢や目標をもてる児童が増加している。 ○地域や社会への関心が高まっている。

2. 中学校について

中学校調査 3年生 市内4校 184名

中学校	調査種別	江津市	全国	島根県
国語	国語A	75.8	75.6	76.3
	国語B	66.0	66.5	67.9
数学	数学A	55.3	62.2	59.5
	数学B	36.8	44.1	41.7

【各教科調査問題】 <○：強み ▲：弱み 全国：各教科における全国平均正答率>

国語 A	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、全国と比べて大きな差は見られなかった。 ○おおむね全ての領域において、全国並みの正答率であった。 ○無解答率が低かった。 ▲文の構成を扱った問題について正答率が低かった。
国語 B	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、全国と比べて大きな差は見られなかった。 ○おおむね全て領域において、全国並みの正答率であった。 ▲文章から必要な情報を読み取り、根拠を明確にして考えを書く問題について無解答率が高かった。
数学 A	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、全国を大きく下回った。 ○計算を解く問題については、正しく処理することができていた。 ▲用語の意味理解のもと解答しなければならない問題について、正答率が低かった。 ▲日常場面を扱った問題について、正答率が低かった。 ▲全国の分布と比較し、正答数の多い層が少なかった。
数学 B	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、全国を大きく下回った。 ▲筋道を立てて証明する問題について全国を下回った。 ▲与えられた情報から必要な事柄を選択・判断し、式を作る問題について全国を下回った。 ▲式の意味を説明したり、筋道を立てて考えを書いたりする問題について全国を下回った。 ▲全国の分布と比較し、正答数の多い層が少なかった。

【生徒質問紙調査】 <○：強み ▲：弱み 全国：質問紙調査における全国平均値 >

学校	<ul style="list-style-type: none"> ○「国語が好きだ」と答える生徒の割合が多い。 ○「国語の内容がよく分かる」と答える生徒の割合が多い。 ○国語において考えを話したり、書いたりする機会が適切に設けられている。 ▲「数学が好き」と答える生徒の割合が少ない。 ▲数学を普段の生活の中でどのように活用するのかという意識が低い。 ▲総合的な学習の時間での探求的活動への取組が十分でない。 ▲話し合い活動が十分に行われていると感じている生徒の割合が少ない。 ▲「めあて」「ふりかえり」について徹底が十分なされていない。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭で学校の話をよくしている。 ○復習をしっかりしている。 ○土曜日に1時間以上学習していると答える生徒の割合は多い。 ○メール・インターネットを利用する機会は少ない。 ▲平日に1時間以上家庭学習をする生徒の割合が少ない。(○2時間以上している生徒の割合は増

	えている) ▲読書時間が少ない。 ▲新聞を読む機会が少ない。 ▲就寝時刻の遅い生徒の割合が全国と比較し多い。
意識	○将来の夢や目標をもっている、自分には良いところがあると回答する割合が全国と比較し多い。 ○地域や社会への関心が高まっている。

3. 改善策について

- ◇全国学力・学習状況調査自校採点結果分析（4・5月）より、各校ごとに授業改善に視点をあてた「江津市授業改善アクションプラン」を立案し、日々改善に向けて実践に取り組んでいる。プランの見直しを行いながら実践を継続していく。
- ◇小中学校国語の結果及び国語に関連する意識について、昨年度より改善が見られた。各校において、条件に合わせて自分の考えをまとめ書く等の取り組みが着実に取り組まれている。力をさらに伸ばすために、学校図書館活用教育の充実を一層図っていく。
- ◇算数、数学を重点教科としてとらえ、指導主事による学校訪問を継続し、次のような視点のもと授業改善を図っていく。
 - ・授業の中で、説明する場面を設けること。
*例：数値、式、図形の作図等の意味を考えさえ、条件に合わせて過不足なく説明する。
 条件に合わせて、数直線、テープ図等を作成し説明する。
 複数の数量（グラフ等）を読み比べ、考えを事象と関連付けて説明する。*
 - ・学びを日常生活と関連付けること。
 - ・数学の用語、記号の意味をしっかりと理解させ、学習内で活用すること【中学校】。
（調査問題使用例→自然数、増加量、変化の割合、変域、最頻値、正比例、反比例、相対度数）
- ◇家庭学習において、学校での学びと関連した課題を組み入れたり、指導者の明確な意図を児童生徒及び保護者に伝えたり、家庭と連携した取り組みを推進していく。
- ◇児童生徒の地域への愛着や自己肯定感は、確実に高まっている。今後も「江津市ふるさと・キャリア教育」の推進を図り、学びに対する意欲を高めていく。